

(4)

保健福祉部の目標

地域でいきる みんなでつなぎ 支え合う福祉のまちにします

複雑、多様化する福祉ニーズに対応するため、行政をはじめ、地域住民や事業者、関係機関がお互いに協力して支え合う、福祉のまちづくりに取り組みます。

また、住み慣れた地域において健康で自立した生活が長く送れるよう、健康寿命の延伸を目指すとともに、白河の未来を切り拓く子どもたちが健やかに育てるよう、安心して子育てができる環境づくりに取り組み、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も誰もが安心して生活できる福祉のまちを目指します。

【実現に向けて】

社会福祉課

- ゆりかごから墓場まで、障がいのある方もない方も、誰もが安心して暮らせる福祉のまちを目指します。

高齢福祉課

- 高齢者になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちにします。

健康増進課

- 市民が安心して必要な医療が受けられるまちを目指します。
- 心身ともに健康で自立した生活が送れるよう、健康寿命の延伸を目指します。

国保年金課

- 正しい資格の被保険者証で安心して病院などを受診でき、健康診査や介護予防の一体的事業により、健康寿命の延伸を目指します。

子ども支援課

- 子どもを産み育てることに喜びを実感できるまちを目指します。

子ども育成課

- 安心して子育てできる環境を整備します。



社会福祉課

めざすまちの姿

ゆりかごから墓場まで、障がいのある方もない方も、誰もが安心して暮らせる福祉のまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少と少子高齢化、核家族の進行、経済の停滞など、社会情勢や生活様式の変化、地域住民同士のつながりの希薄化に伴い、福祉に対するニーズは、複雑化・多様化するとともに、ますます高まっています。

このことから、行政をはじめ、地域住民や事業者、関係機関がお互いに協力して生活課題の解決に取り組み、子どもから高齢者まで、障がいがある方もない方も、誰もが安心して自立した日常生活を送ることができる環境を目指していきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 人々が暮らしていくうえで抱える悩みは、地域住民一人ひとりの共通の生活課題であると認識し、住民と関係機関、行政が連携して地域全体で福祉の充実にに向けて取り組む必要があります。
- 経済的な貧困や社会的な孤立など問題を抱えている人が増えており、複合化する課題を抱える本人やその世帯への支援がより重要です。
- 障がいのある方が地域で安心した生活を送るための支援や支援者及び介護者の負担を軽減する必要があります。
- 障がいの有無に関わらず、地域で共に生きる「共生社会」の実現のため、障がいに対する誤った理解・認識を解消することや障がいのある方への虐待防止の徹底が必要です。
- 障がいのある方が生きがいのある生活を送るためには、地域で意欲的に働くとともに、地域活動や芸術文化、スポーツなどの様々な社会活動に参加することが重要です。
- 日常生活で福祉に関する課題を抱えた時に十分な相談支援を受けることができ、福祉サービスを必要とする一人ひとりの状況に応じて適切な支援につながる体制の充実が必要です。
- 近年多発する自然災害に備えることを含め、地域住民が支えあい助け合うことができる地域となるよう日頃からの住民同士のつながりを持ち安心して生活できるコミュニティづくりが必要です。



◆ 課題を解決するための取組み

生活課題の支援

- 様々な悩みや困りごとなどをワンストップで相談できる「福祉まるごと相談室」の相談機能のさらなる充実を図るとともに、利用者が必要とするサービスを適切な機関等につなげる連携体制を構築します。
- 生活困窮者や社会とうまく関わることのできないひきこもり状態の人など、様々な困難を抱える人々に対し、関係機関と連携し、相談会の実施や居場所づくり、就労支援等自立に向けた支援に取り組むとともに、地域住民が思いやりをもって見守ることができる意識の醸成に努めます。
- 困りごとを抱える人や福祉サービスを必要とする人が、迅速にサービスを利用できるよう、すべての人にわかりやすい情報提供の充実にも努めます。

障がいのある方への支援

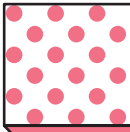
- 障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、関係機関と連携し、家庭環境やライフステージ、心身の状況に応じた適切な障がい福祉サービスや医療給付の提供を推進します。
- 障がいのある方の親なき後に備えるため、緊急時の受け入れ体制の整備や成年後見制度の利用促進を図ります。
- 障がいのある方への就労支援を促進するとともに、地域活動をはじめ、文化芸術スポーツなど様々な社会活動への参加を促進します。
- 障がいの有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し、障がいのある方やその家族に対する理解、協力を促進するため、市民への障がいに関する意識の啓発を図ります。
- しらかわ地域障がい者虐待防止センターと連携し、専門的な相談対応や虐待の早期発見に努め、障がいのある方への虐待防止を図ります。

地域共生の支援

- 民生児童委員や各種団体等との連携を図り、市民による支え合いの体制づくりを進め、人と人が助け合うことができる地域となるよう、地域交流を促進します。
- 緊急時に支援が必要な人を支えるため、地域での要援護者の把握と見守り活動を推進します。
- 地域で生活する様々な人が、お互いの立場を理解し、協力し合える関係が築けるよう地域で支え合う環境づくりを推進します。



- 白河市地域福祉計画
- 白河市障がい児福祉計画
- 公共施設等総合管理計画
- 白河市障がい者計画
- 白河市障がい福祉計画
- 公共施設個別施設計画



高齢福祉課

めざすまちの姿

高齢者になっても住み慣れた地域で
安心して暮らせるまちにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

市民の多くが生涯、住み慣れた地域で過ごし続けたいという希望を持っており、高齢になってもその希望が叶えられるよう、本人とその家族を地域全体で支援していきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 2025年には高齢者の5人に1人が認知症になる見込みで喫緊の課題となるため、その支援について早急に取り組む必要があります。
- 急激な高齢化による介護需要の高まりとともに、介護従事者が不足していることから、介護状態になっても、地域で過ごす事ができるような環境づくりが重要です。
- 地域において高齢者が安心して生活していくためには、行政のみでは人的面、予算面において限界があるため、医療・介護を始めとした専門職との連携が重要となります。さらに、今後は地域における、企業や商店といった他職種や地域ボランティア団体との連携など、インフォーマルサービス^{*1}を充実させ、地域全体での高齢者を支えるための仕組みづくりが必要です。
- 高齢者が地域で孤立しないよう、支えが必要になった時、行政や近所に自ら声をあげやすい環境づくりを推進する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

地域包括ケアの推進

- 「高齢者サポーター」や「認知症サポーター」等のボランティアの育成を進めます。
- 「高齢者サロン」や「居場所づくり事業」「認知症カフェ」等の住民を主体とした、ボランティア活動を活性化させ、地域における高齢者の見守り体制の構築と、高齢者の社会参加を促し、様々な活動を通じて、高齢者のフレイル^{*2}予防、介護予防につなげます。

高齢者福祉サービスの推進

- 高齢者が住み慣れた環境で安心、安全な生活を送れるよう、きめ細やかなサービスを継続して提供していきます。また、「お元気コール」や「移動販売事業」では、高齢者が孤立しないよう高齢者サービスの案内とともに、日常的な相談にも対応していきます。
- 今後の高齢者人口の増加や生活支援サービスに対するニーズの変化に合わせ、サービス体制の充実を図ります。



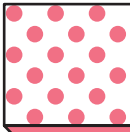
高齢者サロン

関連する 計画

- 第9期高齢者福祉計画
- 第8期介護保険事業計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

- ※1 インフォーマルサービス：家族をはじめ近隣地域社会、NPO やボランティアなどが行う援助活動で公的なサービス以外のものこと。
- ※2 フレイル：病気ではないが、年齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。



健康増進課

めざすまちの姿①

市民が安心して必要な医療が受けられる
まちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に急速な高齢化が進み医療や介護ニーズの高まりがある中、県南地域は県内でも医師数が少ないうえ、年々市内の診療所も減少しており、さらに看護師等の医療人材の不足が懸念されます。

このことから、健康で自立した生活が長く送れるよう、一人一人がかかりつけ医を持ち定期的な受診による健康管理を行うとともに、早期に適切な診療科目の受診を心がける人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市内2病院に対して救急医療・周産期医療・小児医療確保のための支援を行うことで、医療を維持できる水準が保たれていることから、支援の継続と救急医療体制等の維持を図る必要があります。
- 県南地域は、県内でも医師及び看護師等医療人材が不足しているため、医療人材確保対策の継続が必要となります。
- 今後新たな感染症の出現や再興感染症^{*1}が流行する可能性も懸念されることから、基本的な感染予防対策が重要であるという意識を醸成していくことが必要となります。
- 各種感染症の予防のため、予防接種は大変重要な対策であり、乳児期における接種率は高いものの、年齢があがるにつれ接種率が低下してくる傾向にあることから、個別に勧奨通知や正しい情報の周知等、接種率向上に向けた対策の継続が重要となります。

◆ 課題を解決するための取組み

医療体制及び医師確保の推進

- 白河医師会や西白河地方市町村等と連携し、休日、祝日、平日夜間の救急医療体制と県南地域4か所の二次救急医療機関の維持継続、応需率^{*2}向上のための支援を継続します。

- 医師会等関係機関と連携し開業医師に関する情報収集に努めるとともに、医師確保のための事業を継続します。
- 看護師等の医療人材の確保のため、白河医師会准看護学院等への支援と、保健師・看護師を目指す学生の臨地実習^{※3}を通して、人材育成の支援を図ります。
- 二次救急病院や医師の負担軽減のため、市民に市内の医療の現状と夜間・休日等の適切な医療機関の利用方法、救急車の適正利用などについて啓発を行います。

感染症対策の推進

- 新型コロナワクチン接種については、予防接種法に基づき接種を円滑に進めていくとともに、社会情勢に応じた接種体制を構築していきます。
- 各種感染症の予防のため、基本的感染対策の徹底及び発症・重症化予防のためのワクチン接種の重要性、高齢者に発症が多くみられる結核の早期発見のため、検診受診の必要性等について、周知を図っていきます。



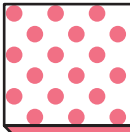
コロナワクチン接種

関連する 計画

- 第2次いきいき健康しらかわ21(後期)(白河市健康増進計画・自殺対策計画)
- 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画
- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 第2期白河市地域福祉計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

- ※1 再興感染症：その発症が一時期は減少していたが再び注目されるようになった感染症（結核等）の総称のこと。
- ※2 応需率：救命医療の機能を測る指標で、救急受け入れ要請のうち、受け入れた割合のこと。
- ※3 臨地実習：医療従事者を目指す学生が実際に病院や診療所、保険・福祉施設へ行って実践的な臨床を学習する授業のこと。



健康増進課

めざすまちの姿②

心身ともに健康で自立した生活が送れるよう、健康寿命の延伸を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市の死亡原因は全国と同様に、がんや心疾患、脳血管疾患等生活習慣病によるものが多く、全体の半数以上を占めており、今後も急速な高齢化とともに、生活習慣病や認知症高齢者が増えていくことが予想されます。

また、コロナ禍によるストレスや孤立・孤独感等、複雑・多様化する心の悩みや不安に対応していくことが大切となります。

このことから、自立した生活をできるだけ長く送れるよう、心身の健康管理に対する意識を高く持つ人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 国では、がん検診受診率の目標値を50%以上と設定し精検受診率についても90%以上を目標としていますが、胃がん・大腸がん・肺がん検診では目標値に及ばない状況にあるため、各種がん検診の受診率向上対策を進める必要があります。
- 特定健診の結果では血圧や血糖、脂質の有所見者は、それぞれ全体の約半数を占め、さらに内臓脂肪症候群該当者及び予備群者の割合は男女ともに増加傾向にあることから、生活習慣病の発症や重症化を予防するため、正しい知識の習得、生活習慣の改善や自主的健康活動の支援を継続して勧める必要があります。
- コロナ禍による健診受診者の減少や自粛生活の長期化に伴い、運動不足や社会参加の制限等自主的な健康増進活動が活発化されにくい状況にあることから、高齢者のフレイル等による要介護のリスクが高まっており、小さなコミュニティの活用や継続しやすい健康づくりを推進する必要があります。
- コロナ禍により、人との交流や、悩みを相談する機会が減ったことから、孤立しないよう相談しやすい体制づくり等が重要となります。
- 自殺予防対策を進めるため、多様化した悩みや問題に対応できるよう、関係部局と連携を図る必要があります。



◆ 課題を解決するための取組み

各種健診（検診）受診率向上の推進

- 働いている人や若い年齢層も予約しやすいシステムの工夫や土曜健診（検診）日の設定、前年度受診者へは継続受診を促す仕組みづくり等、健診を受けやすい環境を整えます。
- 広報白河や保健センターだよりでの周知のほか、SNS での発信も取り入れながら受診勧奨を実施します。
- 各種健診（検診）と精密検査の受診率向上を図るため、がん検診・特定健診の同時実施や、受診勧奨通知の送付等、効果的な受診勧奨に取り組みます。

健康づくり・健康管理の推進

- 健診結果説明会等における住民に寄り添った保健指導の体制を整え、指導率アップを目指します。
- 高血圧・減塩対策として、小学生から指導の継続や、尿中塩分量が多い人を対象とした、医師、保健師、管理栄養士による指導の充実を図ります。
- ダイエットや禁煙指導などを継続し、生活習慣の改善を支援します。
- 自主的な健康活動を活発化させるため健康ポイント事業を継続するとともに、健康無関心層や働く世代の事業参加者を拡大するための取り組みを推進します。
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業や、介護予防事業を継続し、高齢者の特性に応じたフレイル予防のための支援の充実を図ります。

自殺予防対策の推進

- 心の相談やゲートキーパー養成講座、心の健康づくり講演会、心の相談カード配布による普及啓発事業等を継続し自殺予防対策の推進に努めます。
- 若年層の自殺予防対策として小中学生とその保護者を対象に命の教育や自己肯定感を高める講話を継続していきます。
- 自殺対策庁内連携会議を開催し、自殺の現状と各関連事業の進捗について共有するとともに、多様な相談に関係部局と連携して対応することで自殺予防対策を進めていきます。



- 第2次いきいき健康しらかわ21（後期）（白河市健康増進計画・自殺対策計画）
- 第3次白河市食育推進計画 ● 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画
- 白河市こども子育て計画
- 白河市第9期高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画
- 第2期白河市地域福祉計画
- 公共施設等総合管理計画 ● 公共施設個別施設計画



国保年金課

めざすまちの姿

正しい資格で安心して病院などを受診でき、健康診査や介護予防の一体的事業により、健康寿命の延伸を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

すべての人が加入し、病気や怪我で病院や薬局などを受診する際、医療費の支払いが定められた負担割合となる公的保険制度を「国民皆保険制度」と言います。

その保険制度で今、医療技術の高度化や高齢化の進行などから、一人当たり医療費が増加しています。健康寿命の延伸のためには、自身の健康状態を把握し、糖尿病・糖尿病性腎症をはじめとする生活習慣病にならないこと、なってしまった場合は重症化を予防することが大切です。

このことから、国民健康保険被保険者は特定健康診査・特定保健指導などの保健事業に参加し、75歳以降に加入する後期高齢者医療被保険者は、高齢者健康診査に参加し、健康の保持増進を図り、健康寿命を延伸してほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 自分が加入する健康保険を正しく理解せず、必要な加入手続きをしないまま受診すると、医療費を全額自己負担することになったり、医療費の返還を求められたりするなどのトラブルや遡っての国保税の賦課などが発生することから、正しい資格情報が必要です。
- 特定健康診査受診率については、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、完全予約制や実施場所の集約などの対応をしながら、受診率を向上する必要があります。
- 高齢者は、複数の慢性疾患に加え、認知機能や社会的なつながりが低下するといった、いわゆるフレイル状態になりやすいなど、疾病予防と生活機能維持の両面にわたるニーズを有していることから、高齢者の保健事業と介護予防事業を連携して一体的に取り組むことにより、健康状況や生活機能の課題に対応する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

正確な資格による適正受診の推進

- 国民健康保険の加入や脱退の制度について、丁寧な説明を心がけます。特に脱退時は、市役所に来庁する手間がないように、オンラインで脱退できる仕組みの活用を推進します。
- 正しい資格加入手続きとマイナンバーカードの健康保険証利用により、医療機関でオンライン資格確認や健診結果の共有など様々なメリットがあることから、周知を図り推進します。

健康診査及び保健指導の推進

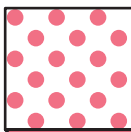
- 前年度の集団健診受診者には、改めて予約が必要ない仕組みをつくりまします。
- はじめて健診を受診する人などが予約しやすい環境を整えます。
- 国民健康保険被保険者に効果的な受診勧奨を行うことで、受診率の向上を図り、健康意識の改善に努めます。
- 雇用先等に対し健康診査を受けやすい環境整備についての啓発を推進します。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業の推進

- 高齢者の保健事業と介護予防のため、健康増進課、高齢福祉課及び国保年金課による一体的な事業を実施します。
- 医療専門職等が、国保データベース（KDB）データから得たハイリスク者の重症化を予防するために、個別に訪問指導して、健康状態の現状維持または改善を促します。
- 3課が共同し、仲間と一緒に学ぶ、改善するなど、心身の健康維持や認知症予防のため、通いの場への参加を促します。また、健康志向を高めるために、健康ボランティアを育成し、高齢者同士が予防のために気軽にチェックしあえる体制を整えます。

関連する 計画

- 第2期白河市地域福祉計画
- 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画



こども支援課

めざすまちの姿

子どもを産み育てることに喜びを
実感できるまちを目指します。

◇ めざすまちの姿を設定した背景と想い

子育て世代は、経済的な不安や地域社会における関りの希薄化などによって、子育てに対する不安や負担感をもつ人が増加しています。

子どもを産み育てたいと願うすべての親たちが、地域の中で安心して子どもを産み、希望と喜びを感じながら子育てに励み、白河の未来を切り拓く子どもたちが健やかに育ってほしいと考えています。

◇ めざすまちの姿を達成するための課題

- ハイリスク妊婦^{*1}や特定妊婦^{*2}が増加傾向にあるため、妊娠期から出産・子育て期と各段階できめ細かく切れ目のない支援を継続していく必要があります。
- 発達障害や愛着形成不全の子どもが増加傾向にあるため、様々な機会を通して子どもとの関わり方について指導していくとともに、就学前に、支援を要する子どもの情報を保育園・幼稚園と小学校との間で共有し、連携して支援していく必要があります。
- ひとり親や経済的に困窮した家庭の子ども、ヤングケアラー^{*3}などが、生まれ育った環境によって将来が左右されることがないように、様々な支援を継続していく必要があります。
- 児童虐待が増加傾向にあるため、児童相談所や警察署、学校等関係機関と緊密に連携し、虐待の早期発見・早期対応に努める必要があります。
- 医療費助成の登録手続きや、償還払いの各種医療費助成申請など窓口での手続きが必要となり負担となっているため、DX化を進め手続きの簡素化に取り組む必要があります。
- 20代から40代を中心とする子育て期は、子育て世帯の所得水準の低迷や経済環境の悪化など様々な苦勞に直面しており、安心して子どもを産み育てられるよう育児費用等の経済的支援を図る必要があります。

◇ 課題を解決するための取組み

子育て世帯への経済的支援の推進

- 各種手当や医療費の給付を円滑にすすめていくほか、子育て世帯のニーズを把握し「白河っ



子すくすく応援クーポン券支給」のような本市独自の経済的支援策を実践していきます。

- ひとり親家庭が経済的に安定しゆとりをもって子どもに接する時間が持てるよう、ハローワークと連携して就労を手助けし、自立に向けた働き方ができるよう支援していきます。
- 忙しい子育て世帯の生活をより便利で豊かに変えるため、各種申請手続のオンライン化を推進します。

子育て支援の充実と問題を抱えた家庭に対する支援の推進

- 子育てひろばや子ども食堂などを運営する団体と連携し、課題を抱えた子どもの把握に努め、各々の事情に応じた効果的な支援策を検討し実践していきます。
- 子どもの養育など家庭内の様々な問題や悩みの相談を受けるとともに、児童虐待が懸念される家庭を観察・指導し、児童が身体的・精神的苦痛を味わうことがないよう関係機関と連携し支援していきます。
- ヤングケアラーの把握に努めるとともに、ケアラーの意思を尊重しつつ必要な支援に取り組みます。

妊娠期から子育て期にわたる相談・支援の推進

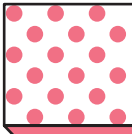
- 妊娠期及び出産後に心身ともに健康を維持できるよう、妊産婦訪問指導や産後ケアなどきめ細かで切れ目ない相談支援を継続します。
- 乳幼児健診などの機会に子どもの健康や発達状況、愛着形成などを確認し、必要に応じてのびのび教室など各種教室の利用を促し、児童の健やかな成長を支援します。
- 子どもの発達状況を幼稚園・保育園において確認し、就学に向けて助言等の支援を行います。また、幼稚園・保育園と小学校の連携を深め、就学後も継続して支援します。
- すべての子どもとその家庭及び妊産婦を一体的に支援する「こども家庭センター」を設置し、支援体制の強化を図ります。

関連する計画

- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 白河っ子未来応援計画
- いきいき健康しらかわ21(後期)(白河市健康増進計画・自殺対策計画)
- 第3次白河市食育推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

- ※1 ハイリスク妊婦：妊婦自身、また胎児の健康や命に何らかの問題が生じる可能性の高い妊婦のこと。
- ※2 特定妊娠：出産後の子どもの養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦のこと
- ※3 ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。



こども育成課

めざすまちの姿

安心して子育てできる環境を整備します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

子どもや家庭を取り巻く環境は、核家族化、共働き世帯の増加、都市化の進展等による連帯意識の希薄化などにより大きく変化し、家庭や地域における養育機能は低下しています。

児童を健やかに育成していくことは、家庭だけでなく地域にとっても大きな意味を持っており、地域社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安・孤独感を和らげ、保護者が安心して子育てできる環境づくりが重要になります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 社会情勢の変化に伴い共働きの家庭が増加し、保育園・幼稚園・児童クラブにおける役割や保護者が当該施設に期待することも変化していることから、ニーズを的確に捉え、効果的な施策展開を行う必要があります。
- 児童クラブにおいて待機児童が発生しているため、解消する取組みが必要です。
- 保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育士不足の解消が必要です。
- 保育施設を健全な状態で維持できるよう、統廃合も含め計画的に整備する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

保育サービスの充実

- 急な子どもの病気に対応できない保護者のために、一時的に預かり、子どもの病気のケアなどの支援を行います。
- 民間児童クラブとの連携などにより、待機児童の解消を図ります。
- 保育士不足の解消のための支援を行うことで、待機児童を減らしていきます。
- 子どもを保育するための専門的な知識の向上を図り、多様な保育ニーズに対応できる質の高い人材の育成を図ります。
- 子どもの豊かな人格形成に寄与するため、音楽や劇、運動、自然との触れ合い、その他学習など、多様な学びの機会の創出を図ります。



保育園等の施設の充実

- 施設の老朽化対策を実施するとともに、統廃合を含めた施設の更新や大規模改修については、計画的な整備を行います。
- 施設の更新や大規模改修においては、多様化するニーズに応えるため、その時代に合った使いやすい施設整備を行います。



幼稚園の遊具

関連する計画

- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 白河市公共施設等総合管理計画
- 白河市公共施設個別施設計画
- 第3期白河市読書活動推進計画